



CRESCENDO V

Be careful of all the stories because it is fiction controlled by the serial story. The story of RURI and AKITO goes and goes though it is returned in the present edition and progress follows this to enjoy the decided process whether the connections of four people go how. The man who appears on the back cover of volume 100, doesn't almost have his turn.

ADULT ONLY

■ CRESCENDO-FIVE ■

コノツキ
寝起しんりやん

■ 18歳未満の人物及び現実と妄想の区別がつかない人物などの閲覧、購入はご遠慮くださいませ。
もちろんこの本の、一部または全ての無断転載、引用等を禁止します。

■ インターネット上（ホームページ、UP掲示板など）の無断公開は絶対に禁止します。

どんな言い分があろうとも禁止します。
尚、読者様、関係者のご連絡により結構判明します。
注意しでもきりが無く、掲載された場合警告無しで対処します。

CONTENTS

JIBAKU-SYSTEM 2002.08.11

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| p 5 「大人の証明」 | 小説 しだれ栞 挿絵 kodechi |
| p 14 「CRESCENDO 5」 | 涼樹 天晴 |
| p 37 「漢 ハーリー」 | すとれ〜とF |
| p 42 「参加者あとがき」 | |
| p 44 「奥付」 | |
| p 35、36、41 「駄文、落書き」 | 涼樹 天晴 |

■注意事項■

インターネット上(ホームページ、UP掲示板など)の無断転載は絶対に禁止します。
どんな言い分があろうとも禁止します。
18歳未満の人物、現実と妄想の区別がつかない人物、以上の閲覧、購入はご遠慮くださいませ。
もちろんこの本の、一部または全ての無断転載、引用等を禁止します。

Copyright 2002 Jibaku System
all rights reserved. no part of this book may be reproduced or transmitted
in any form or by any means, electronic or mechanical, including
photocopying or recording, without permission in writing from publisher.
published and distributed by Jibaku System keeping group.

『大人の証明』

Sentence しだれ桜

Illustration KODECHI

夢を見た。

私は夢を見た。

一人で、ただ広い世界を一人で歩いている夢を……

どこまで行っても光はみえない。

だから、どこまで続くのかも分からない。

ずっと一人で歩き続けてる。

ずっと……

これからも、ずっと……

そんなのは、イヤです……

そう呟いてみる。

闇の中で……

でも、聞こえない。

私の声は聞こえない。

闇の中、何故か私の声は聞こえなかった。

でも……

確かに私は呟いた。

救いを求めるように……

側にいる誰かに救いを求めるように……

でも、私は一人……

誰が側にいるというのだろうか？

私は、誰に救いを求めたというのだろうか？

私は、分からなかった。

一人は、イヤ……

気がついたとき、私はもう一度囁く。

自分では、分からないほどに、憐れ……

消え入るように……

1

目を覚ました。

私は目を覚ました。

そこは見慣れた天井。

起動戦艦ナデシコの中にあるルリの自室。

飾りつけのない部屋。

ルリ一人の空間。

聞こえる水の音。

その音に導かれるように目を覚ましたとき、何故か私は泣きたくなった。

「なぜ？」

私は、小さく、そう問いかけていた。

2

私は見つめていた。

目の前にあるコンソールパネルを。

無数に広がるウインドウを。

ほとんど無意識にナデシコを操るルリ。

後で起きる痴話喧嘩がやや耳障りなBGMだった。

だが、それを気にしなくなるほど、ここでの生活にも慣れてきた。

くだらないときえ感じる日常。

そう思った瞬間、口の端をゆるめて、小さく笑った。

不思議と、笑いがこみ上げてきた。

「なぜだろう？」

私には分からなかった。

3

無音の闇をかける光。

並列の時間さえもゆがめて前に進む。

何のために？

望んだことをするために？

目の前で繰り広げられる戦争。

ルリには無関係だとさえ取られるように。

命のやりとりをしているはずなのに、どこか緊張感

がないのは、きっと間違いなくナデシコにいるメンツの

せいだ。

でも、目に見えない悩みをみんな持っている。

あの、脳天気の何も考えてないアーバー艦長ミスマ

ル、ユリカでさえも悩みを持っているはずだ。

ルリは後ろを振り返ると、小さくため息をついた。

どうして、みんな悩みを自分の中でかかえてしま

のだろうか？

私は、グラビティプラストのスイッチを入れるため

息をついた。

激しく起こる爆発。

木星衛星が巻き込まれて消える。

私は、ため息をつくともう一度振り返った。

まだ、バカをやっている。

「なぜ、こうもこの人達は極楽トンボなんだろう？」

4

そうして、ルリの一日は終わる。

安らかに眠りに落ちる。

水の音に導かれながら、目を覚ます。

そして、一日が始まる。

「なぜ？」と自分に問いかける一日が。

生きてることの意味を問うこと。

それを繰り返す。

与えられた目的をこなしていれば、それで良いとい

う行き方。

今のうちからそれをするというのも、どうかと……

……

そう思っているから、私はどうしたらいいのか？

そこでまた。

「なぜ？」と問いかける。

答えは見つからない。

5

敵と戦うばかりが脳じやなく、ただのんびんだらり

と宇宙を旅する日々。

今日も今日とて幽話喧嘩。

ユリカ艦長とオペレーターのメグミさんが、優柔不

断の甲斐性なしを逆って喧嘩している。

でも、なぜ、アキトさんに対して誰も言い寄らない

のだろうか？

ユリカ艦長とメグミさんが意思表示を懸ったところ

で、なにも進展が無いというその事実は何故気がつ

かないのか……

「バカばっか……」そう思う。

あの人達はきっと自分に問いかけることがないのだ

と、そう思う。

それが、それを知らずするためにあんなことをしてる

のかも？

だとしたら、アキトさんは可哀想だ。

実体のない気持ちを押しつけられて、一人間に立

たされて、悩まされている。

今まではそう思っていた。

でも、彼を見て気付かされたことだが、彼がはつき

りとした態度を見せないからこそ

話はどうどんエスカレートしているという事実。

それを考えると、軽く失笑を誘う。

「なぜ、結論を出さないのだろうか？」

彼も答えを見つけれないのだろうか？

でも、彼の態度は明らかに不誠実だ。

というか、本当に答えを出す気があるのだから

か？

逃げ回っているだけじやないにも解決しないだろう。

彼のどこが良いのだろうか？

6

日常を求めて、何も考えないままに。

生きていけたら、きっと簡単だと私は思う。

ここにいる人達は、その事を考えているのだから

か？

7

思いきり私は問いかけたくなる。

でも、きつと答えはないままに。

言葉は続く。

世界は続く。

時間は続く。

一人のんびりと世界を見つめている。

どこまでも続く漆黒の闇を。

その中にきらめく、ボゾンの閃光。

そこから、現れる世界。

そして始まる戦い。

それぞれの理由。

それぞれの思惑。

全てが絡み合い、単純だった戦いは、やがて戦争へとその様相を呈してくる。

まるで、大きな蛇みだいに。

絡みついて、強く。

離れようとしないうままに。

それがより私たちを大きな「何故？」へと引きずり込んで行く。

時間だけが重なる。

無知蒙昧だった私たちに。

大きな目的を与えて。

そして、さらに「何故？」と問うきつかけを作る。

それが生きると言うことなのだ、私は気付く。

7

流れた時間が、孤独を作る。

結論を出さないと、なにも変わらない毎日はずっと
なにも変わらない今のまま。

私は、はたして、このままで良いのだろうか？と問いかけたくなる。

でも、問いかけたところでもなにも変わらないままなのだと
言うことも、私は分かる。

だからこそ。

私は、「何故？」と問いかける。

極楽トンボのみんなを見ながら、自分だけでもしっかりしなければと思いつつも、みんながみんな、それぞれの思惑を抱き、必死に前を見ようと無駄な
あがきをしている。

殻を破るように……。

日常を壊さない限りは、なにも変わらないのだと。

私はそう思い続ける。

言葉を求めるたびに、何かを意識して、無意味に前に向かい歩く。

そして、戦いの中に身を投じることになる。

ついに知った事実、火星の遺跡を求めての戦い。

本連軍との骨肉の戦い。

醜いと感じるほど、お互いを偽り。

己のことだけを考え求め続ける。

この戦いの果てに、一体何があるのか？

ここでも、私は新たな問いを見つける。

重なるたぐさんの何故？

見つからない言葉の先に。

戦いを求めて、進み続ける。

行く先々の闇の中。

この戦争に正義はあるのだろうか？

いいえ……。

私の持つたぐさんの何故？

その中に……。

この問いに何故に対する答えがあった。

その答えは。

「ない」

この戦いに正義はない。

私は、分かっていただけで。

なんで、この戦いに参加したのか。

強制で決められたことに。

私には拒否権はなかった。

だからこそ、ナデシコに乗り。

私の日常を続ける。

研究機関にいたときと比べて、私は自由で。

私はその自由を得るために私の能力を開放して
いる。

その先に一体何を得るのだろうか？

分からない……………。

そして、今日も単調な一日が終わる。

8

そして眠る。

私は、私であるために……………。

答えを探すために、私は生きているのだろうか？

それとも。

そして、現れた私の父と母。

遺伝子上の両親で。

秘密に両親といえるのだろうか？

聞こえた水の音に、私を守ろうとしてくれた存在。

アキトさん……………。

初めて、極楽トンボのみんながアキト、アキトって言

うのが分かったような気がする。

この人は……………。この人は……………。

優しすぎる。

優しいからこそ。

だから、答えを出せないでいる。

その事に身をもつて知る。

そして、私を庇おうと無茶ばかりして。

その腕の中に収まったとき、初めて、人が暖かいも

のだと知った。

だからこそ、甘えたように瞳を閉じて。

気がついたとき、全てを失ってみる。

私は、私でいられたのだろうか？

そう、ゆっくり問いかけてみる。

答えは、やはり見つからない。

生まれたことに対して、何を欲しているのか？

きつと大きな疑問。

問い続ける。

闇の中を……………。

産道のように、ジメジメとして、生暖かく、恐ろしい

闇の中を。

私が通らなかった道。

それを求めながら歩き続ける。

そして、また今夜も目を覚ます。

水の音が聞こえなくなつて、変わりに、肉の道を通

る夢を見て。

そして、落ちる赤い雫。

私の中から生まれた赤い雫。

これから毎月、流す血。

それは……………。

私が生きている証。

私が女である証。

なぜ？

なぜ、作られた私は血を流すのでしょうか？

女？ 女？

少女？

子供？

流す拳。

誰か止めて……。

狂おしいと感じるほどの肉の壁。

私は毎晩そこを通る。

そして、目を覚ます。

うずくからだ。

それを沈めるためにはどうしたらいいのか……。

分からない……。

分からない……。

オモイカネですらきっと分からないこと。

私は、それを見ている。

あの、バカのメンツを……。

そして、私は知った。

なぜ、みんながああも極楽トンボなのかと言うこと
を。

血を流したとき、はじめて知った。

血を流したとき、初めて気がついた。

男と女なのだと。

そして、耐えられないからこそ。

この戦いに耐えられないからこそ、逃避するように、

男と女を演じているのだと。

それに気付く。

それに気付いた。

私は、宇宙を見上げた。

漆黒の闇の中。

ため息をつく。

大人になると言うことは、バカになると言うこと
だ。

それに気がついたから。

私は、情けなく思う。

なら、私は、大人にならなくて良い。

そう、思う。

血を止めてください。
誰か、私の血を……。

大人になりたくないと思うからこそ。

血を流したくないと思うからこそ。

今夜も夢を見る。

あの肉の道を通る夢を見る。

生まれるために。

生まれ変わるために。

死ぬために。

私は、私でありたいから……。

10

自分の女。
女の証。

気がついたとき、私は、指をそこにのばす。
自分を慰めていた。

あんなに嫌いな肉の壁を私が求めたこと。
気がついたとき、私は全てを壊したいと思っていた。

何を求めているのか分からないままに。
私は自分の股間に手を伸ばしている。

ナデシコの中にたくさん男はいるのに。
なぜか、あの人のことが……。

11

私の部屋の中。

人知れず服を脱ぐ。

そつとのばした指。

秘部に触れて。

厚い肉の壁。

私は、そこを通らなかつた。

でも、私にはそれがあつて。

いつか誰かを受け入れる。

間違ひなく、私に秘肉はある。

熱くて、赤くて。

私は、ベッドに腰をかけるとそつと、股間に手を伸

ばして、そこをバックリと広げてみる。

少し、痛みを感じる。

そして、刺激。

私は、背筋をのけぞらせた。

なぜ……こうも、凄いのだろう。

自分の身体なのに。

火照ってきて、逃げられない。

広げたまま、どうしたらいいのかわからない。

指が止まる。

でも、そのまま筋になじってみたいと思った。

そのまま、肉にそつとこすってみる。

「んっう……」声上がる。

私以外の誰かの声。

そのままいけるまで擦ってみる。

来た快楽を受け流すようにそのまま……。

息が荒くなる。

息が荒くなる。

それが止まらなかつた。

そのまま、自分の指は奥を探る。

グリグリと。

肉を探るように……。

息が荒くなる。

はあはあともらす息は、止まらなくて。

熱くて、強くて。

いつか、誰かが私の中を通過して生まれてくる。

それまでに、私はここをもっと知りたい。

そうすれば……分かるかもしれない。

そのまま、赤いままをこすってみる。

「んっんっん……」

そのまま指を滑り込ませる。

グチユグチユと音が起つ。

私の中のいやらしい音。

それが、耳に届くたびに。

さらに私は、指を入れる。

糸をひく指。濡れるたびにさらに求める。

もつともつと欲しくなる。

熱いと感じる以上に。

欲が、溢れてくる。

もつと強く溢れてくる。

そのまま、もつともつと。

溢れてくる欲。

それ以上に私の中に感じたもの。

私の中に欲にまみれた別の生き物を感じる。

それが暴れる。

意志のない獣。

それが、私を求める。

そのまま、胸に指をはわせる。

そして、指を筋にはわせたまま。

中に入る……。

「うんっんんっんっ！」

背筋が凍るほどの気持ち。

これが、肉の悦び。

あまりの快楽。

だからこそ、これを求める。

愛よりも欲を求めるのだろうか？

だから、これが欲しい。

そのままずっと指をはわせ、まるで私以外の生き物が。

気持ち。

気持ちに答えるように。

だから、ずっと私は私を求めて。

指を入れて……。

中で掻き回す。

「ああっ！」

荒くなる息。

それが止まらない。

ずっとずっと。

私はそれを求めていた。

必死に自分の中を。

秘肉を求める。

たれる涎が熱く指に絡みついて。

そのまま、赤い肉を見て欲しい。

舐めて欲しい。

入れて欲しい。

欲が、欲が止まらない。

そのままはじけるように。

「アキト……アキトアキトアキトさんっ！」

何度も私の中の別の生き物が声を上げた。

荒く着く息……。

そのままくったりと。

私は、糸をひいた指を眺めていた。

止まらない息。

私はそれを舐めた。

強く、吸い上げるように……。

なんで、アキトさんなんだろう……。

私は、分からなかった。

そして、裸のまま眠りに落ちる。

なぜ？ の嵐の中に……。

その夜初めて肉の道を歩かない夢を見た。

それは大人になった証？

それとも私の道を通る人を見つけたから？

いつも座る席。

そこが私の世界。

背後で起きる痴話喧嘩。

少し、今なら分かる。

なぜ、アキトなのか……それは分からない。

でも、あの優しさに私は救われて。

いつも側で微笑んでくれたから。

その中に安らぎを感じる一瞬が、一度だけあった。

だから……、それがあるから。

みんなアキトと呼ぶのだろうか？

それか、誰もが自分の中にあの獣を飼っているか

ら。

欲に導かれるままに誰でも良いから求めるのだろうか？

なぜ？

分からない。

その問いは今も増え続けて。

消して消えることのない。

でも、それが大人になると言うことなら。

私は大人にならなくて良い。

でも、身体は育つ。

大きな矛盾をはらんだまま、私は常に前に歩かな

ければいけない。

分からないままに。

流す涙。

瞳をこぼれる涙。

それを思う。

でも、これからも私は問い続ける。

なぜ？

きつと、永遠に……。

答えは見つからないまま、心の中に欲と想いを秘め

て……。

問いは終わらない……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。

……。



CRESCENDO V

presents by
"suzuki amaharu"

This story is the continuation of CRESCENDO.





やっと会えた...

ルリちゃん...

.....



状況102発生

特別ブロック
第5区画3番通路
8番口前待機

内部監視装置ダウン

3Aクラスの担当
指示をこころ、以上

了解、待機せよ



……

このまま見つかりますか…？

このまま見つかり
ますか…？

…ヒヤン…



銃声聞かれちゃい
ましたね…





だからって無茶だ
…もし…

間に合いましたよ

19



アキトさんを信じて
ましたから

それに…

もう置いていかれるのは
嫌ですから…

知ってますか？

好きな人のためなら…

たとえどんな時でも女の子は
命がけなんですよ

……



戻ってるんですね…

20



私が隠した記憶…



駄目です

それは…

もう絶対に
使わせません



それが抑制剤ですか…

ル、ルリちゃん

すみません…アキトさん

IFS間強制介入させて
もらいました…



…知ってますよ



だから来たんですから

ちひ…

無理しないで下さい…

…

…アキト…



ルリちゃん…

すぐに帰るんだ…

私を…

犯してしまうから
ですか？







あ、あの…

このカッコは…



……



20

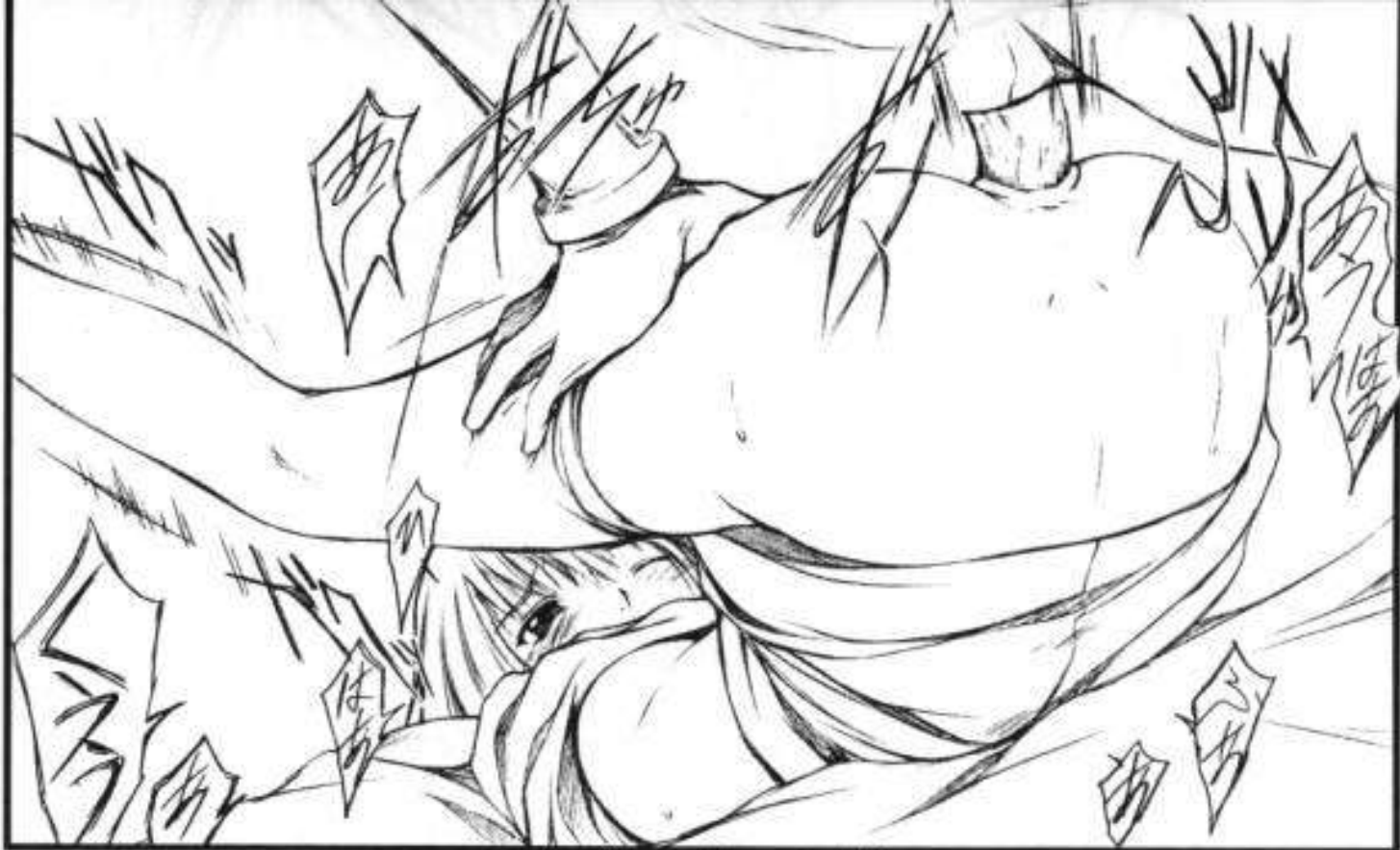


あら











久しぶりに会ってなんだけど
率直に話わね

アキトくんね…

(麗のささやき)
ダークウィスパー症候群よ…

え…

主に本能…

闘争と性欲の衝動暴走ね

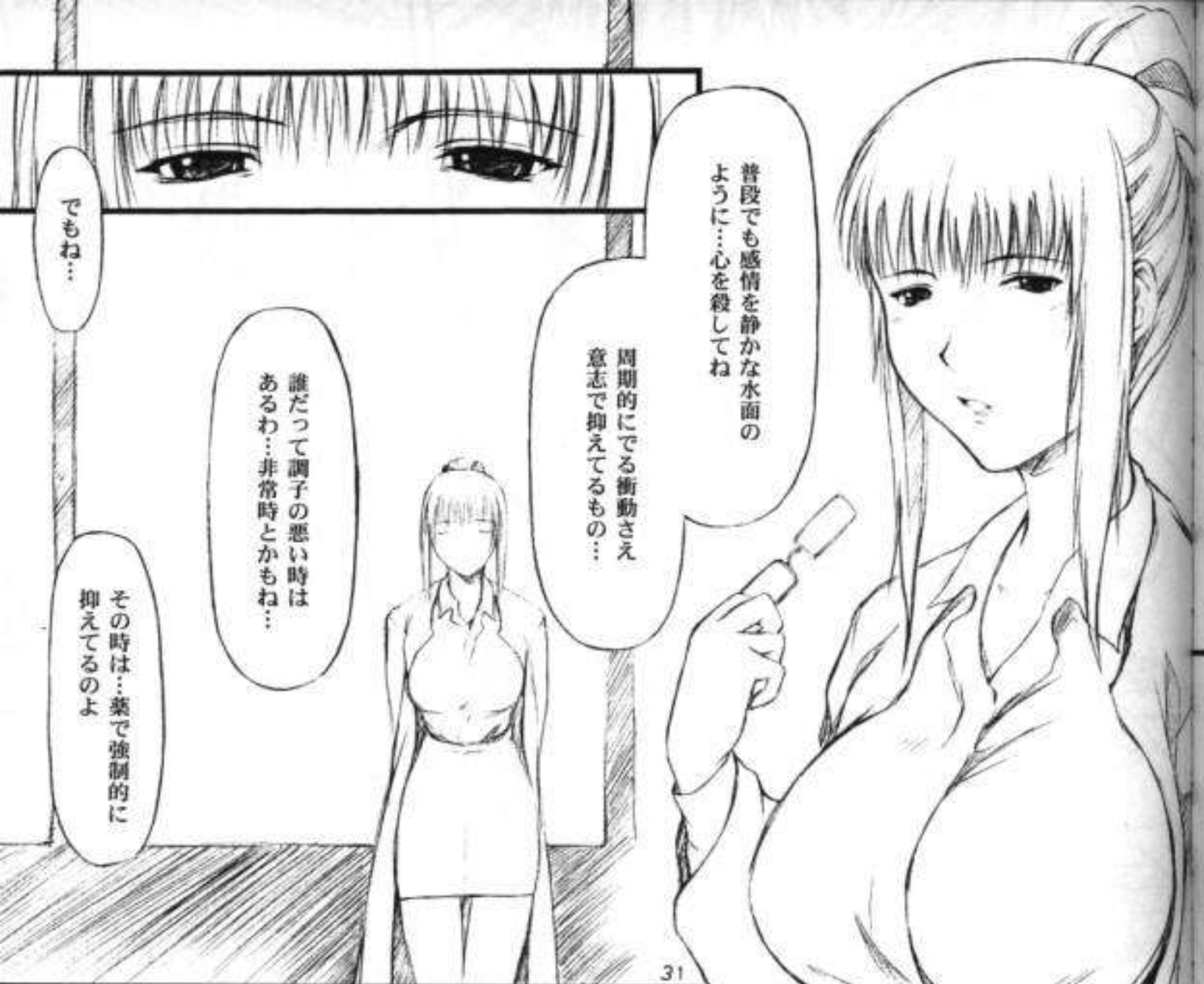
非公式なんだけど通常の
IFS障害でも症例は
2件の報告があるだけね…

全体的に
おぼろげ
な感じ
あり

アキトくん
のタイプ
は結構
多いかも

戦闘特化型のせい
か特にアキトくんのは
ひどいわね

…実際良くもってるわ…



普段でも感情を静かな水面の
ように…心を殺してね

周期的にでる衝動さえ
意志で抑えてるもの…

誰だって調子の悪い時は
あるわ…非常時とかもね…

でもね…

その時は…薬で強制的に
抑えてるのよ



本人はなんとも無いと
言い張るけど…

実際、相当の負担に
なってるわね





■双子漫画キャラ原案■

すっかり予定が伸びて冷汗物の漫画キャラ

どうみても○学生ですな、メガストアのほうで描かせてもらう予定…許可ができれば（笑
ここんとこ乳キャラばかりだったので華奢な人物が描きたかった、てゆーのが主な理由です。
年内中になんとかしたいと思います…M治さんすみません（汗

基本ツルけと知らしめ組んでるな
お母さん作るも作らな
相対しててさ、2人とも男描きな（ねー）（笑）
胸が全くなさー
おっぱいがないー

（おし、二つ子とさぶてりやん2でXにするがて
どうぬかぬ？ 最近113113とうまじいかな
許すてるのか？



■描きたい物シリーズ■

駄目だにねえ(笑)

LAS派てゆーかLARS派だね

いまさらのような気がするけど、

まだ好きなんだよね～

自分の整理の為に作りたいな～

出すとしたらおそらく個人誌、

他のメンバー書かないと思う(笑)

おめだにねえ(笑)
作りたいんだけどね～
CREはあかぬえだす。



『漢。ハーリー』
ちびこ

2002. 8. 4
おとねとF

連合宇宙軍地下
シミュレーション実験チーム





手をつないで
ねました。



フルーツ牛乳
さしちやうに
な...

それから...
それから...



それから...

ホッ

それから...

ん〜♡

ハリー君
バグった?

どうにも、しんぼう
ごれなひんごぶね...
キスしちゃいました



それから
すよ

それから
すよ

それから？

それから…



かんちせお♡

もうやめな。

おおー!!

いきおいあまて熱暴走。

ウレシハズカシ夏体験です。

あっ

んっ

んっ

あ



END

■寝起きラビス■

コンセプトてきにありそうじゃない？

の寝起きをより自然に描く所が17



■あどがき■

DAY LIGHT STAFF

おとりの反省点が...とありぬあう~
時間あははずなんですか悩んでるあていうまね時が~と
GMOのせいで誤りなれてすか~
かんたんなのオレの
しかし本当に進まぬか~このマンガはやばい。
CRE6で終了のはずぢやないですか~
どうなのかわかぬです~と
すみませ~と
あやまちはあかす今日と
冬こそっとよゆうもっ作らさ~
...多分...



■涼樹 天晴■

■あどがきな駄文■

どもです。狼が来たでおなじみの
涼樹 天晴(すずき あまはる)です。
まずはお手にとつていただきありがとうございます。
やっとこ CRE1の続きです...
すいません、内容全然進みませんでた(汗
ユリカでてないし...
なんか最近、手がやたら遅くなってて
状況的にかなりやばいです(汗
原稿あげたの最後だし...
商業誌もほったらかしで、編集から電話が...あう~
なんとかしないとやばいみたいです。

CREもう少し続きますので、よろしくお願ひします~
それではまた。お元気で~

MAIL : kimidori@pb.highway.ne.jp

URL : <http://home9.highway.ne.jp/jibaku/>

『深森亭』自爆 SYSTEM ホームページ

涼樹氏には、またもご迷惑をおかけしました。

すいません。m (_ _) m

あと、今回は、友人に激しく感謝します。

原稿締切の直前でマシントラブル。電源ボックスが逝ってしまい原稿が書けなくなりました。

でも、waka氏のアドバイスのおかげとご尽力により原稿は助かりました。

組立&秋葉巡りつきあってくれてありがとうございます。m (_ _) m

この場を借りて厚く御礼申し上げます。

ありがとうございます。おかげで原稿間に合いました。(=ω=)!

最後に宣伝です。

最近ちよくちよく色々なエロゲでシナリオを書かせていただいております。

シナリオ「しだれ桜」と言う名前を見かけたらよろしくお願いします。

あと、お仕事くださ〜い

連絡先アドレス: sidarezakura@hotmail.com

しだれ桜

しだれ桜さんお久しぶり! 前の投稿して出た2巻の1話はB911-12の100%以内です。
よかったですよ〜 2巻の1話の裏の11にっか(笑)

ござさたです。KODECHIです。

毎回こんなですいません。
今まで描いたの見返すと
オナ絵ばっかですな(_ _):

・・・大回転したいです♥
意味不明。

2002/07

なんとなく
さくら...
特にイニは... (汗)



kodechi

21142で描(笑) またお返りはすね〜おねだり!!

こんにちは。すとれ〜とFです。今回も、すっかり時間がかかって
しまいました。早め=終る努力しなきゃな〜。とりあえず「間」にあい
ました。(というが載ってるんだから間)にあってるんです(汗)

今回の話。
ハリー-君のお話にしてみました。すとれ〜とFとしてほおほりどれがキ
ラキラにわねえくれないと話にならないようす。ハリー-君、すっかりわね
ます。どうでしょう? ふう。来月はPSOの新作が発売することをいのり
つつ... せねでほ〜

2002.8.4 すとれ〜とF



すとれ〜とF

キラキラの絵の方が好きです。その絵がG〜
おつかい。

うわー!!7月の
フォーマット
変更お子物も
なくないか
ごめん



奥付

平成14(2002)年08月11日 初版発行

発行者 涼樹天晴

発行所 自爆SYSTEM

ホームページアドレス <http://home9.highway.ne.jp/jibaku/>

連絡先メールアドレス kimidori@pb.highway.ne.jp

印刷所 トム出版様

この本は、印刷屋さんが丹精込めて印刷製本して下さいましたものです。
万一、落丁乱丁本があったとして、それは本番数日前完全ギリギリに入稿するという
暴挙に出た執筆陣の責任です…。ごめん。
本誌の、一部または全ての無断転載、引用等を禁止します。
定価はイベント、及び一部の同人誌取扱店にて表示してあります。
インターネット上（ホームページ、UP掲示板など）の無断公開は絶対に禁止します。
18歳未満の人物、現実と妄想の区別がつかない人物、以上の閲覧、購入はご遠慮くださいませ。
2002 JibakuSystem, Printed in Japan

まじでギリギリ
トム出版様の力のおかげ
だよ!!
だっ!! 8/8
AM 5:55
当日23時が1?

Copyright 2002 Jibaku System
all rights reserved. no part of this book may be reproduced or transmitted
in any form or by any means, electronic or mechanical, including
photocopying or recording, without permission in writing from publisher.
published and distributed by Jibaku System keeping group.



CRESCENDO V

Be careful of all the stories because it is fiction completely by the serial story. The story of RURI and AKITO goes and goes through it is returned in the present edition and progress is slow. It is to enjoy the decided process whether the connections of four people go low. The man who appears on the back cover this time, too, doesn't almost have his turn.

ADULT ONLY